

☆「まとめ」を言語化することは、教師自身の授業のゴールイメージを明確にすることにもつながります。
☆ねらいにせまるための問い返しにより、アウトプットの質を高め、学習内容に対する理解や考えを深めることができます。

問い返しとアウトプットで、まとめの内容の確実な理解と定着を図る!

問い返し: 児童生徒の発言に対して問い直すこと アウトプット: 自分の考えや学んだことを表現すること

学習展開例

分母が同じ分数のたし算の仕方を説明してみましょ。友達の説明のいいところを取り入れたり、足りないところは補ったりしましょう。

アウトプット
分母はどちらも5なので、分母はそのままにして分子だけを計算します。分子が2+1で3になるので、答えは、 $\frac{3}{5}$ です。

分子だけをたせばいいから...

問い返し
分母と分子を別々に考えればいいのか?

計算の仕方を学んで終わりではなく、各教科等で働かせる見方・考え方(分数の意味や単位量のいくつ分)にせまることができるようにする。

アウトプット
もとになる分数の $\frac{1}{5}$ がいくつあるかで考えます。 $\frac{2}{5}$ は、 $\frac{1}{5}$ が2こです。つまり $\frac{1}{5}$ が(2+1)こで3こになるので、答えは、 $\frac{3}{5}$ です。

分数は、 $\frac{1}{5}$ がいくつ分かで表せるから...

問い返し
もとになる分数のいくつ分で考えるとどんな良さがあるかな?

他の数でも使えるか試して一般化につなげたり、考え方の良さを理解して活用したりできるようにする。

アウトプット
もし、問題が $\frac{1}{7} + \frac{2}{7}$ だったとしたら、もとになる分数の $\frac{1}{7}$ のいくつ分になるかを考えれば、整数と同じように計算ができます。

どんな分数でも、 $\frac{1}{〇}$ をもとにする考えが使えるな。

問題 ジュース $\frac{2}{5}$ Lと $\frac{1}{5}$ Lをあわせると何Lですか。

分母は同じだね。

めあて 分母が同じ分数のたし算の仕方を考え、説明しよう。

式 $\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$

整数ならかんたんだけど、分数でもたし算できるのかな。

・答えも分数になりそうだ。
・分子も分母もたしてはどうか。
・「1Lます」の図をかくて考えよう。
・線分図で表してみよう。

練習問題
① $\frac{2}{7} + \frac{3}{7}$ の計算の仕方を考えて、説明しよう。
② $\square + \triangle$ ←□や△にいろいろな数を入れて計算しよう。

まとめ
分母が同じ分数のたし算は、もとになる分数の何こ分になるかを考えれば、整数と同じように計算することができる。

答えが1をこえてもいいの?

1Lを5つに分けた「ます」を使っているから、たし算しても分母は同じだ。

1を5つに分けた3つ分なので、答えは $\frac{3}{5}$

式 $\frac{2}{5} + \frac{1}{5} = \frac{3}{5}$ もとになる分数
答え $\frac{3}{5}$ L

$\frac{1}{5}$ が何こ分になるかを考えると...

$\frac{2}{5}$ は $\frac{1}{5}$ が ② こ
 $\frac{1}{5}$ は $\frac{1}{5}$ が ① こ
あわせて、 $\frac{1}{5}$ が (2+1) こなので $\frac{3}{5}$ になります。

整数で計算できる!

もう、みんなが自分の言葉でまとめを言えそうですね。では、となりの人に説明してみましょう。
また、他の分数の計算もできるかチャレンジしてみましょう。

まとめ
分母が同じ分数のたし算は、もとになる分数の何こ分になるかを考えれば、整数と同じように計算できる。

